平成27年 新年のごあいさつ

惻隠（そくいん）の情（あわれみの心）

明けましておめでとうございます。

今、日本人の心の中から消えつつある幾つかの言葉の中に「惻隠の情」と言う言葉がありますが、「惻」とは同情し心を痛めると言う意味で「隠」も同じく深く心を痛めるという意味であります。

人が困っているのを見て、自分の事のように心を痛めるような自他一如（じたいちにょ）の心持ちのことを言います。そこで、そのような思いやりの心をどのように育てるか、それは第一に「わがまま」を抑えることで、礼節をわきまえることではないでしょうか。それは行儀であり、その意味が理解出来るのも人間だけだからです。

その第一歩は、本町が実施しているオアシス運動を推進することに尽きると思います。なぜなら、礼儀作法は人間のみに出来る自立心だからです。

故事百選に「惻隠の心は仁（じん）の端（たん）なり」とありますが、他人のことを思って同情する心は、やがては人の最高の徳である仁に通ずるもので、孟子（もうし）の性善説につながるものだと思います。最近政治の世界も経済界も、家族も社会全体が自分さえ良ければいい、自分さえ儲かれば良いという風潮が蔓延しているように思えてなりません。

そこで思い出されることは、大東亜戦争中の駆逐艦「雷」の工藤艦長の行動です。それは、軍規に反して敵兵救助を決断した武士道精神であり、さらに武士道の真骨頂として、言霊として後世に語り継がれる大和魂であります。その素晴らしい日本の文化伝統は、守り継いでいかねばならないと思います。

自然界においても近年、これまでに経験したことのない局所的な災害が発生しています。今、自治体の最重要課題は、住民の方々の安全安心であります。佐谷区と上須恵区に於いて自主防災組織が設立されましたし、防災対策として新たに東部防災センターを整備し、緊急時の物資・資材を確保していますが、これで万全ということではありません。

自助、共助、公助の精神で口（くにがまえ）の国づくりに協働しなければならないと思います。

そのためには、これも本町が進めているコミュニティ事業が、暮らしのコミュニティに繋がり、「子育てするなら須恵町で、老後を暮らすなら須恵町で」と、住んでよかったと実感出来る町づくりを実現しなければなりません。

そんな中、昨年末に安倍政権の中間テストが実施されました。第3期安倍政権で、そのような理想社会が実感できるよう念じながら、年頭のあいさつといたします。

須恵町長　中嶋　裕史

住みよい須恵町へ

明けましておめでとうございます。

町民皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

旧年中は、議会活動に対し格別のご理解とご高配を賜りまして、心から厚く御礼申し上げます。

昨年12月には、衆議院議員総選挙が実施され、新しい国の方向性が選択されました。アベノミクス効果は、地方には波及していないようで、第三の矢が放たれ、地方が実感できる景気回復を期待したいものです。

町内に目を向けますと、第二小学校に4教室、第一学童保育所・すこやかコミュニティ事務局、南幼稚園給食室などが新築ならびに増改築されました。

国においても「子ども・子育て支援新制度」が本年4月に本格施行される予定であり、子育て中の全ての家庭を支援する制度として期待されています。本町でも、第三小学校区内のアザレア幼児園改修事業計画が発表され、待機児童解消や幼児教育充実など、子育てしやすい環境整備を目指しているところです。

また、昨年4月には、中嶋町長が再選され、4期目の町政に取り組まれることとなりました。本町発展のため、一層ご尽力いただくことを切望するものです。

議会では、本年4月に統一地方選挙を控えており、本町議会も改選の年となります。我々議員は「住みよい須恵町」づくりのため、一人ひとりが議会の使命と議員の職責を認知し、品位ある議会運営を目指し活動してまいりました。本年も皆様のご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

２０１５年の干支は「乙未」（きのとひつじ）。「未」という字は、枝葉が茂っている木の形で、まだ枝が伸びきっていない部分を描いたものだといわれています。また、「羊」年とも表現され、群れをなす羊は、家族の安泰を示し、いつまでも平和に暮らす事を意味しているそうです。本町のさらなる発展が、ここに住む人々の安らぎへとつながっていくことを願っております。

終わりに、この新しい年が皆様にとって実り多い年になりますことを祈念申しあげ、念頭のあいさつとさせていただきます。

須恵町議会議長　三角　良人